

## 学長式辞

待田昌二

皆さん、ご卒業おめでとうございます。心からお祝いを申し上げます

保護者、ご家族の方々に対しましても、本日もご列席いただきましたことに感謝を申し上げますとともに、祝意をお伝えいたします。

皆さんは卒業後様々な道に進みます。住まいは変わらず通う場所が大学から勤め先になるという人が多いでしょう。社会人になると同時に住む場所も変わるという人もいますし、本学の大学院に進むので住まいも通う場所も変わらないという人もいます。いずれにしても、卒業によって人間関係は変化していきます。新たな人たちと出会い、新たな関係を築いていくこととなります。人間は新しさや変化による刺激を求めています。一方で新しさや変化は、戸惑いと不安をもたらします。

そのようなときに思い出してほしいことを二つお話ししたいと思います。一つはユニバーサルという言葉で、もう一つは今から125年前の出来事です。

まず、100年以上昔の話からしたいと思います。神戸松蔭からは神戸の港を見渡せます。卒業とともに神戸を離れる人は、ぜひこの後もう一度神戸港を見渡してください。今年はその神戸港の開港150年にあたります。港としての神戸の歴史は、1200年前の平安時代にまでさかのぼることができますが、現在につながる国際的な港として開港したのは150年前、鎖国から開国へと転換した江戸時代末期になります。

港が開かれてすぐに明治時代になり、ヨーロッパやアメリカの影響を受けた近代化が始まります。神戸港は、当時の日本では数少ない海外の船が訪れる港として、人や文化が真っ先に入ってきました。その中の一人が、イギリス人宣教師ヒュー・ジェイムズ・フォスです。彼は女性宣教師らとともに、神戸北野の地に本学のルーツである松蔭女学校を設立しました。今から125年前のことです。松蔭女学校の生徒は開設時11名と伝わっています。たった11名ですが、私は逆に、今から125年前の明治25年に、イギリス人宣教師が開いた学校に通わせようと思った人が11人もいたことに感心します。

今、私たちは海外の情報を簡単に手に入れることができます。テレビで外国の風景や暮らしぶりは常に紹介されていますし、インターネットではさらに詳しい情報を得ることができます。そういった国境を越えた情報のやり取りと、世界規模で物が流通することにより、世界中のどこでもTシャツを着ていたりスマホを使ったりと、生活習慣も似たものになってきています。テレビもインターネットもない125年前はどうだったのでしょうか。イギリスという国やイギリス人の生活について具体的に知ることはほとんどできませんでした。125年前の松蔭女学校開設当初の頃の写真を見ると、生徒たちは日本髪に着物ですので、特別に洋風文化を取り入れた少女たちだけが通っていたわけで

はありません。生徒たちとイギリス人との間には、まさに異文化というべきギャップがありました。今の私たちには想像できないような戸惑いや葛藤、場合によっては衝突を経て、松蔭女学校が維持・発展したのだと思います。

いま私たちは情報革命とグローバリゼーションという時代の変化の中にいます。急激な変化は人々を不安に陥れます。アメリカなどで起きている、貿易や人の交流を止めてしまおうという動きは、こういった不安の一つの現れでしょう。しかし、現在のこの大きな変革も、明治時代の日本人が経験した変化に比べればまだしも緩やかな変化です。明治時代には、政治・経済という大きな枠組みから服装や暦、時間の数え方、お金の単位といった生活の隅々に至るまで、江戸時代から短期間で変わってしまいました。そのような時代に生きた少女たちは、どれほどの戸惑いや不安を感じたでしょう。

皆さんが、新しい環境で戸惑いや不安を感じたときに、今から125年前の明治時代に、イギリス人宣教師が開いた学校に通いはじめた少女たちがいたことを思い出してください。

さて、授業が終わってから今日の卒業式まで一か月以上経ちました。この間、皆さんはどのように過ごされたのでしょうか。卒業旅行に行った人もいるでしょうし、国家試験対策や採用試験対策の勉強を続けていた人も少なくないでしょう。就職先での研修やバイトをしていた人もいるでしょう。もう何度も行ったけど学生時代最後にも行こうということで USJ に行った人もいると思います。今さら説明することでもありませんが USJ はユニバーサル・スタジオ・ジャパンの略です。

新しい環境で不安になったときに思い出してほしいことを最初に二つ挙げましたが、その一つが、このユニバーサルという言葉です。

ユニバーサル・スタジオは、もともとはアメリカの映画撮影スタジオの名前ですが、ユニバーサルという言葉は、ユニバーサル・デザインという言葉としても聞いたことがあると思います。ユニバーサルはユニバースの形容詞であり、「宇宙の」とか「全世界の」という意味があり、また「普遍的な」とか「人類共通の」という意味もあります。ユニバーサル・デザインは、お年寄りや体の不自由な人たちでも使いやすいようデザインされた食器や用具のことを指しますが、誰でも使いやすいという意味を込めてユニバーサルと付けたのでしょう。

そのユニバーサルを使ったヒューマン・ユニバーサルという言葉があります。人類学や心理学で使われる言葉で、ヒューマンは「人間」という意味ですから、ヒューマン・ユニバーサルで普遍的人間性、すなわち、文化を超えて共通してみられる人類の特徴という意味です。普遍的人間性という大層ですが、思い切って平たく言うと「人間、根っこのところはどこの人でも大して変わらんやん」という意味です。国や民族が違えば、言語や習慣といった点で人間は本当に様々で、お互い簡単には理解できないのですが、一方、どこの国の人であってもうれしい時は笑う、というように共通点もあり、そのお

かげで言葉が通じなくても気持ちが通じあえます。

皆さんの学生時代に、スマホで動画を見ることがあたりまえのことになりました。面白そうな動画はすぐに共有されて多くの人を楽しませます。どこの国で作られた動画かということはほとんど問題になりません。日本から発信された動画が世界中で楽しめることもある、というのは皆さんよくご存じの通りです。このような現象も、国や文化を超えて多くの人々が、面白いもの、可愛いものを見てみたいと思い、また、どんなものを面白いと感じるのか、どんな映像を可愛いと思うのか、共通した気持ちがあるからです。ユーチューブのような動画サイトの広がり、ヒューマン・ユニバーサルすなわち人間の普遍性の一つの表れでしょう。

何を面白いと思うのか、どんな時に怒りの気持ちがわくのか、どういったときに感動するのかという感情の面で、人間は共通しているというだけでなく、どんな不注意をしやすいのか、間違いをしやすいのかといった点、さらには互いに協力しようとする性質まで、人類全般に見られる共通した心の働きは数多くあると考えられています。

新たな人との出会い、新たな人間関係で不安になった時に、このヒューマン・ユニバーサルという言葉と「人間、根っこのところはどこの人でも大して変わらんやん」という意味を思い出してください。人間、中身はみんな似たようなものという安心感を持ちつつ、自分とは違う部分に好奇心を持ち、刺激を受けて、自分自身の成長の糧としてください。

125年前に松蔭女学校に通っていた少女たち、ヒューマン・ユニバーサルという言葉という二つのこととお話ししました。最後にもう一つだけ付け加えることがあります。それは、もしも皆さんが新しい環境に疲れて一息つきたいと思ったとき、気分転換したいと思ったときは、卒業後でもぜひ大学を訪れてほしいということです。我々大学教職員は卒業生の皆さんを歓迎いたします。本学は六甲山のふもとの高台という、街の中心部から一步離れた場所にあり、チャペルを中心に心を落ち着かせることのできる雰囲気です。今後もその雰囲気を大切にしたいと思います。

また、大学は、卒業生に対しても、公開講座や資格取得の機会の提供、図書の貸し出しなどを行っています。卒業生の皆さんに提供できるものを今後さらに増やしていきたいと考えています。皆さんの再訪をお待ちしています。